



TakaRa

# **Established** Strengths, **Sustained** Progress

アニュアルレポート 2010

## 企業理念

自然との調和を大切に、  
発酵やバイオの技術を通じて  
人間の健康的な暮らしと  
生き生きとした社会づくりに貢献します。

### 将来見通しに関する注意事項

この報告書に記載されている、当社および当社グループの現在の計画、見通し、戦略、確信等のうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣の判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づきなされたものであります。実際の業績は、様々な要素によりこれら予測とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おさください。

実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢、特に消費動向、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、競合会社の価格・製品戦略による圧力、当社の既存製品および新製品の販売力の低下、生産中断、当社の知的所有権に対する侵害、急速な技術革新、重大な訴訟における不利な判決等がありますが、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

わたしたちTaKaRaグループは、日本伝統の酒造りの発酵技術と最先端のバイオ技術の革新を通じて、食生活や生活文化、ライフサイエンスにおける新たな可能性を探求し、新たな価値を創出し続けることによって、社会に貢献しています。

宝ホールディングスは、酒類事業や調味料事業を展開する宝酒造グループ、バイオ事業を展開するタカラバイオグループに加え、健康食品事業の成長を加速させる役割を担う宝ヘルスケアを傘下に置く持株会社として、グループ全社の経営を調整・統括し最大限の事業成果を追求しています。

## Contents

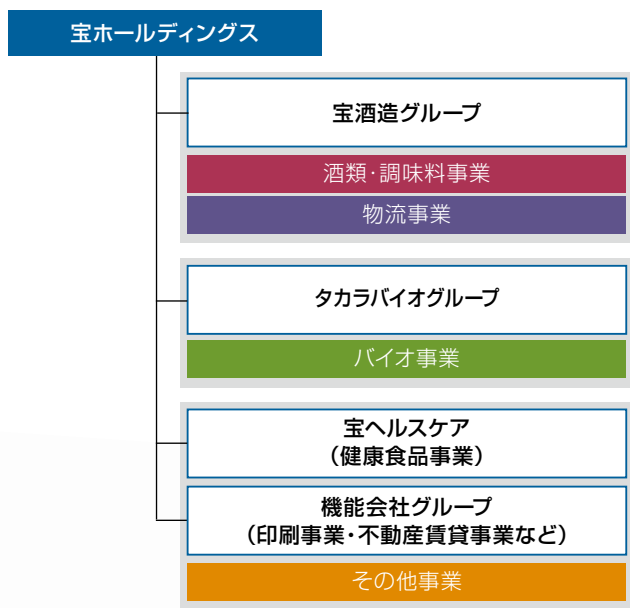
プロフィール.....	1
営業概況.....	2
宝ホールディングスの事業戦略.....	4
社長インタビュー.....	6
特集 Established Strengths, Sustained Progress.....	11
事業概要.....	16
宝ホールディングスの歴史.....	20
コーポレート・ガバナンス.....	22
役員.....	24
社会・環境活動.....	25
6年間の主要連結財務データ.....	26
ファクトシート.....	27
主要子会社データ.....	28
会社概要.....	29

# 営業概況

## 「安定性」と「成長性」の両軸で、 グループの飛躍を実現する

TaKaRaグループの事業は、酒類・調味料、バイオ、物流、その他の4つのセグメントから構成されています。酒類・調味料事業は安定した収益により、グループの強固な事業基盤を支えています。一方で、バイオ事業、健康食品事業は高い成長性を持っており、将来の飛躍を担っています。

### TaKaRaグループの事業構造



### 酒類・調味料事業



### バイオ事業



### 物流事業



### その他事業

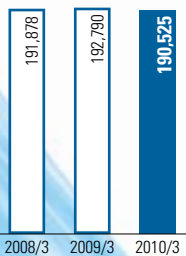


### 2010年3月期

#### 売上高

**190,525** 百万円

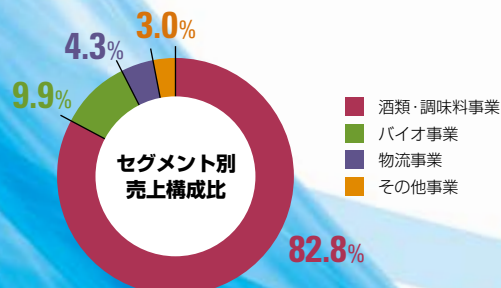
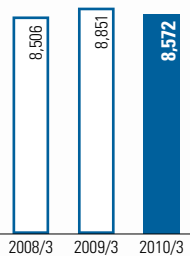
(前期比98.8%)  
(百万円)



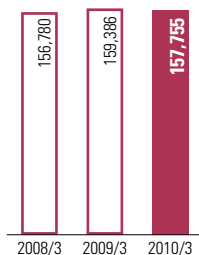
#### 営業利益

**8,572** 百万円

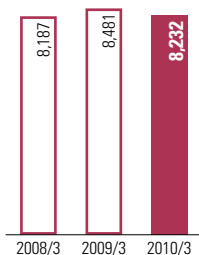
(前期比96.9%)  
(百万円)



**売上高**  
(百万円)



**営業利益**  
(百万円)



**セグメント概況**

当期の当セグメントの売上高は、前期比99.0%の157,755百万円、売上構成比は82.8%となりました。

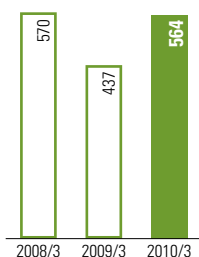
景気低迷による消費マインドの減退や、外食市場の冷え込みなどにより、非常に厳しい市場環境となるなか、全量芋焼酎「一刻者」などの高品質ブランドや、極上<宝焼酎>、「焼酎ハイボール」などの低価格志向に応える商品は順調に推移しましたが、本格焼酎「よかいち」や高級ワインの売上減少、円高の影響による海外子会社の売上減少などにより、減収となりました。

利益面では、原材料価格の安定とコストダウン施策の継続により売上原価率が改善したものの、商品構成の変化によって販売促進費が増加したため、営業利益は前期比97.1%の8,232百万円となりました。

**売上高**  
(百万円)



**営業利益**  
(百万円)



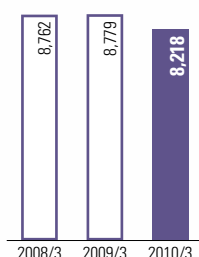
**セグメント概況**

当期の当セグメントの売上高は、前期比102.7%の18,900百万円、売上構成比は9.9%となりました。

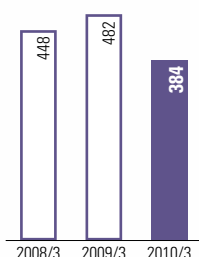
遺伝子工学研究分野において、主力製品である研究用試薬の売上高が円高の影響で減少しましたが、理化学機器や、遺伝子医療分野におけるがん免疫細胞療法に関する技術支援サービス、医食品バイオ分野におけるキノコ関連製品の売上増加により、増収となりました。

利益面では、売上高の増加による売上総利益の増加に加え、販売促進費等の減少によって販売費及び一般管理費が減少したため、営業利益は前期比128.9%の564百万円となりました。

**売上高**  
(百万円)



**営業利益**  
(百万円)



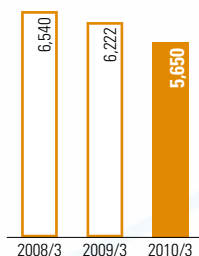
**セグメント概況**

当期の当セグメントの売上高は、前期比93.6%の8,218百万円、売上構成比は4.3%となりました。

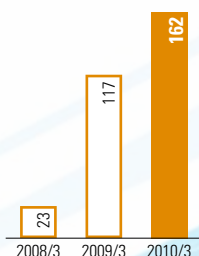
宝酒造の物流総代理店として効率化によるコスト低減に努めるとともに、通販・販促物流の新規事業展開など外部販売の拡大に注力しましたが、景気低迷の影響や、同業他社との価格競争激化などの影響を受け、減収となりました。

利益面では、売上高の減少による売上総利益の減少に加え、販売費及び一般管理費が増加したため、営業利益は前期比79.6%の384百万円となりました。

**売上高**  
(百万円)



**営業利益**  
(百万円)



**セグメント概況**

当期の当セグメントの売上高は、前期比90.8%の5,650百万円、売上構成比は3.0%となりました。

健康食品事業、印刷事業および不動産賃貸事業を中心に展開するなか、健康食品事業ではフコイダンを中心に売上高が増加しましたが、印刷事業において売上高が大幅に減少したため、減収となりました。

利益面では、健康食品事業の営業損失減少などにより、営業利益は前期比137.7%の162百万円となりました。

# 宝ホールディングスの事業戦略

## 酒類・調味料事業で安定した収益基盤を作り、 バイオ事業と健康食品事業で、飛躍的な成長を遂げる

－TaKaRa Evolution-100より

TaKaRaグループは、2000年に策定した10年間にわたる長期経営構想「TaKaRa Evolution-100(「TE-100」)」のもと、「業績の進化」「事業の進化」「経営の進化」「風土・人財の進化」「社会・環境行動の進化」という5つの進化の実践に取り組んでいます。この中では、酒類・調味料事業を安定した収益基盤、バイオ事業と健康食品事業をさらなる成長を担う事業と位置付け、真の企業価値(value)の向上に努めています。

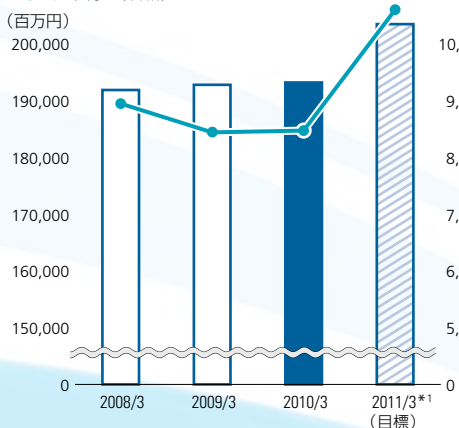
TE-100で掲げるビジョンの達成に向けた行動計画が、3年毎に発表している中期経営計画であり、現在、TaKaRaグループは、2011年3月期を最終年度とする、第7次中期経営計画を推進しています。

### TaKaRaグループ 第7次中期経営計画

**基本方針** 成長投資と株主還元を通じ、中核事業の持続的安定成長と、成長事業育成の加速を実現し、企業価値の向上を目指す

#### ■ 定量目標 (TaKaRaグループ)

■ 売上高(左軸)  
● 経常利益(右軸)



TaKaRaグループ連結で、2011年3月期売上高2,000億円以上、経常利益100億円以上\*1を目指します。また、利益をあげ自己資本をコントロールすることで、自己資本利益率の改善に努めます。

#### ■ 宝酒造グループ

2011年3月期売上高 **1,750億円**以上 経常利益 **80億円**以上\*1

#### ■ タカラバイオグループ

2011年3月期売上高 **193億円** 経常利益 **10億円**\*2

#### ■ 宝ヘルスケア

タカラバイオの技術を活かした商品における通信販売顧客の獲得を最優先の戦略として活動する。

(※1) 第7次中期経営計画策定時に掲げた定量目標であり、2011年3月期の業績予想ではありません。

(※2) タカラバイオグループでは、事業環境を鑑み毎年3カ年の事業計画を更新しています。2010年5月に発表した最新の中期経営計画では、最終年度(2013年3月期)の定量目標として売上高215億円、経常利益12億円を掲げています。

**財務戦略** 既存事業における通常の投資に加え、成長のための投資に資金を投下し、そして積極的な株主還元を実施する。

#### 成長のための投資

3カ年累計

**100億円**以上

#### 株主還元総額

3カ年累計

**100億円**以上の実施  
(これまでの2倍規模)

#### 株主還元性向

下限値

**50%**の設定\*3

(※3) 以下の式で算出します。  
株主還元性向 =  $\frac{\text{株主還元総額 (配当総額 + 自己株式取得額)}}{\text{みなし連結当期純利益*4}} \geq 50\%$

(※4) みなし連結当期純利益 = (連結経常利益 - 受取利息・配当金 + 支払利息) × (1 - 法定実効税率)

## ■ 事業戦略

### 酒類・調味料事業

---

#### ■ 戦略目標

厳しい市場環境下においても、国内酒類事業の収益力を維持・向上させ、同時に、国内外の伸びる市場にチャレンジする。

#### ■ 3年間の位置付け

持続的に安定した利益を創出し、確固たるキャッシュフローを下支えする。同時に、成長分野に関しては、成長事業への道筋を明らかにし、将来キャッシュフローを明確にしていく。

#### ■ 行動テーマ

- **国内酒類事業**:強いブランドを複数持つ、強固な利益基盤の確立  
コスト削減活動の継続と生産性向上の推進
- **海外事業**:清酒と調味料の二つのカテゴリーを柱に、全世界のグランドデザインを構築
- **加工業務用調味料事業**:顧客視点に立った商品開発・営業活動で、加工業務用調味料メーカーとしての飛躍を目指す

### バイオ事業

---

#### ■ 戦略目標

「遺伝子工学研究分野」の事業の拡大・安定化を図り、「医食品バイオ分野」の収益改善を進め、「遺伝子医療分野」における研究開発をさらに積極的に推進する。

#### ■ 3年間の位置付け

遺伝子医療の商業化の加速と、それを支える収益基盤の強化を行い、将来キャッシュフローの拡大を図る。

#### ■ 行動テーマ

- **遺伝子工学研究分野**:収益基盤のさらなる強化
- **遺伝子医療分野**:早期商業化を目指した臨床開発の推進
- **医食品バイオ分野**:健康志向食品やキノコの売上拡大による収益改善

### 健康食品事業

---

#### ■ 戦略目標

タカラバイオの技術を活かした商品における通信販売顧客の獲得を最優先の戦略として活動する。

#### ■ 3年間の位置付け

将来、TaKaRaグループの収益の柱となるような成長事業として確立できるよう、事業基盤の構築に注力する。

#### ■ 行動テーマ

- 広告宣伝の継続や販路拡大などの先行投資の実施
- ガゴメ昆布「フコイダン」シリーズの拡大
- 通信販売顧客の拡大とリピーターの獲得

## 社長インタビュー



**基盤事業で安定した収益をあげながら、  
成長事業を育成していくことで、  
TaKaRa グループの企業価値向上に  
努めてまいります。**

**大宮 久**  
宝ホールディングス株式会社  
代表取締役社長

TaKaRaグループは、高い技術力を活かした個性豊かな商品や革新的な技術サービスを世に送り出すことで成長を遂げ、安定した収益基盤を築いてきました。TaKaRaグループの最大の強みは、安定的な収益基盤事業と有望な将来性のある成長事業とを併せ持つ事業ポートフォリオにあると考えています。業界再編などの変化の激しい事業環境においても、この強みを活かし長期的な視点を持って独自の成長戦略で前進し続けます。

# Q1

## 2010年3月期の業績についてお聞かせください。

景気低迷や円高の影響を受け、売上高・営業利益ともに前期を下回ったものの、TaKaRaグループの強みを活かし、その影響を最小限にとどめることができました。

2010年3月期（以下、当期）のTaKaRaグループ（以下、当社グループ）の連結業績は、景気の低迷による低価格志向の高まりや酒類消費の減少、円高の進行などにより、売上高が前期比1.2%減収の1,905億25百万円、営業利益が前期比3.1%減益の85億72百万円となりました。また当期純利益は、繰延税金資産の計上で法人税等調整額が大きく減少した前期に比べ17.1%減益の46億77百万円となりました。

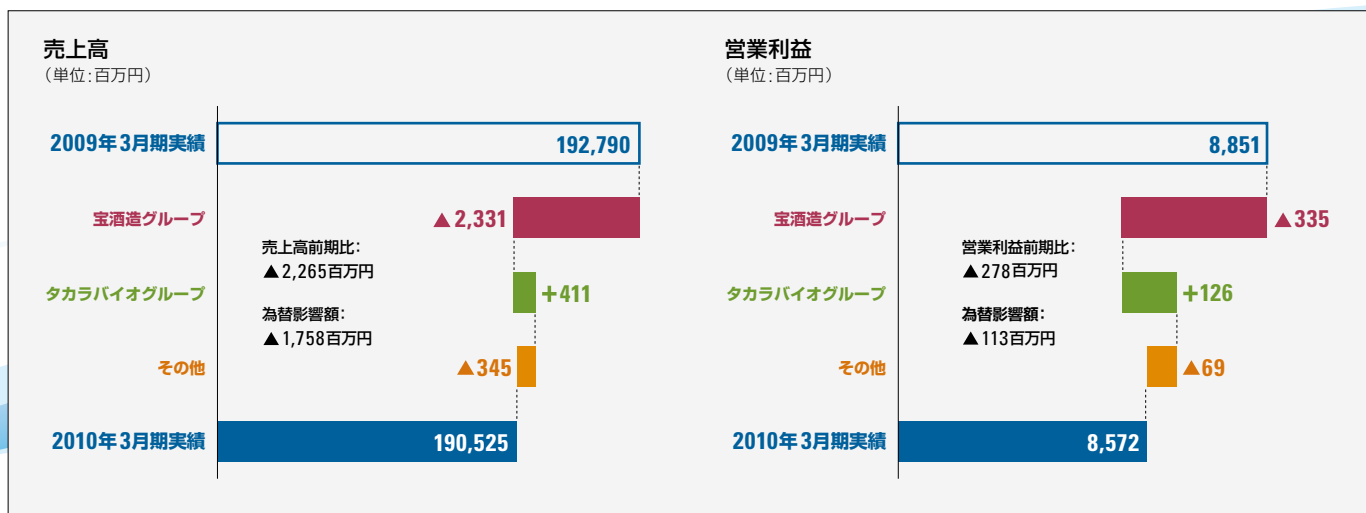
事業グループ別に見ますと、酒類・調味料を扱う宝酒造グループでは、景気低迷の影響を受け、物流会社や高級ワインの輸入販売会社などの業績が悪化し、減収減益となりましたが、宝酒造単体では前期並みの営業利益を確保しました。厳しい外部環境においても、こだわりゾーンの全量芋焼酎「一刻者」や本格麦焼酎「知心剣」、スタンダードゾーンの極上<宝焼酎>や「焼酎ハイボール」などの売れ行きは堅調に推移しており、宝酒造が技術力を結集し他社との差別化を図ったこだわりの商品群は、不況下においてもお客様のご支持を集めていることを実感しています。

タカラバイオグループにおいては、遺伝子工学研究分野における理化学機器、遺伝子医療分野におけるがん免疫細胞療法に関する技術支援サービスなどの売上の増加と、販売費及び一般管理費の減少により増収増益となり、3期連続での営業黒字を達成しました。研究用試薬の経年に伴う売上高の変化に対しては、毎年新製品を投入して商品構成を拡充することで、売上高の安定的な確保につなげています。

宝ヘルスケアについては、注力商品であるフコイダンシリーズを中心に、通販ルートの売上が順調に伸長し、営業損失も改善しました。

総じて当期は、当社グループの強みである事業ポートフォリオと商品ラインナップを活かし、厳しい事業環境による影響を最小限にとどめることができたと評価しています。

### ■ 2010年3月期業績の増減要因



酒類・調味料事業の海外展開に向けた施策や、バイオ事業における遺伝子治療・細胞医療の臨床開発など、当社グループの将来に向けた布石を打つことができました。

当期の取り組みを通じて、第7次中期経営計画(以下、第7次中計)に掲げた施策が具現化し、当社グループが次に進むべき方向性を示すことができましたと考えております。

宝酒造グループでは、国内酒類事業において、景気低迷で消費者の生活防衛意識が高まる中、消費者の節約・低価格志向への対応として、極上<宝焼酎>、「焼酎ハイボール」といったスタンダードゾーンの商品の拡販に注力しました。また同時に、景気回復局面を見据え、全量芋焼酎「一刻者」、本格麦焼酎「知心剣」、松竹梅「白壁蔵」<生酏純米>などのこだわりゾーンの商品についても、業務用ルートにおける間口を拡大することができました。

また、加工業務用調味料事業においては、酒類卸や食材卸、加工食品メーカー、中食・外食など、それぞれのユーザーのニーズに合わせた営業体制を確立しました。海外事業では、フランス最大規模の日本食材輸入卸会社であるFOODEX SAS(以下、フーデックス社)の株式の80%を2010年4月に投資総額35億円で取得し、欧州での流通網を獲得しました。今回の決定は、宝酒造グループとしてヨーロッパにおける卸事業に参入

することで、日本食材流通の拡大および日本食文化のさらなる浸透を図るとともに、そのシナジーを活かして、清酒や調味料の売上を拡大させることを狙ったものです。米国においては、景気回復後の清酒市場の拡大を見据え、重点市場別、チャネル別に売上拡大を図るとともに、生産拠点の製造能力を増強しました。

タカラバイオグループでは、遺伝子工学研究分野において、米国クロンテック社製品の中国への製造移管を引き続き実施し、価格競争力を強化することができました。

遺伝子医療分野においても、着実な進展が見られました。遺伝子治療では、三重大学医学部附属病院と共同で、TCR遺伝子治療の臨床研究を2009年8月に開始するなど、商業化に向け進展が見られました。細胞医療では、医聖会 百万遍クリニックにおいて、「レトロネクチン®誘導Tリンパ球療法」の有償治療を2010年5月より開始することができました。

健康食品事業を担う宝ヘルスケアでは、「TaKaRa フコイダンサプリ50」を中心に定期配送コースの顧客が増加し、通販ルートの売上高が順調に伸長し、収益の改善が見られました。

## ■ 第7次中計の進捗 (対象期間:2008年4月~2010年3月)

第7次中計テーマ	これまでの歩み	
宝酒造グループ	国内酒類事業の収益力の維持・向上	
	差別化された商品の開発・育成	本格麦焼酎「知心剣」、松竹梅「白壁蔵」<生酏純米>を発売 全量芋焼酎「一刻者」を中心に品質訴求商品のブランド育成を実施
	利益マネジメントの徹底	販売促進費の効率的な活用を実施 販売予測の精緻化により、未出荷ロスを削減
	国内外の伸びる市場へのチャレンジ	
	海外事業	米国清酒市場の拡大を見据え、米国宝酒造の製造能力を増強 仏フーデックス社への資本参加により、欧州での販路拡大
加工業務用調味料事業	機能性と経済性をもつ商品ラインナップを充実 新規大口ユーザーの開拓、大口ユーザーにおける取扱品目の拡大を推進	
タカラバイオグループ	遺伝子工学研究分野の事業拡大・安定化	米国クロンテック社製品の製造を中国(大連)へ移管し、価格競争力を強化
	医食品バイオ分野の収益改善	キノコの自社販売体制を構築し、収益力を強化 ホンシメジの新規栽培法確立により収穫量および品質を向上
	遺伝子医療分野における研究開発の推進	HSV-TK遺伝子治療の治験、TCR遺伝子治療の臨床研究を開始 「レトロネクチン®誘導Tリンパ球療法」の有償治療を開始
宝ヘルスケア	通信販売顧客の獲得	フコイダンを中心に、通信販売ルートの売上高を拡大



## 厳しい事業環境において、どのような戦略で勝ち残っていく考えでしょうか。

酒類・調味料事業の収益基盤を強化し、バイオ事業と健康食品事業の育成を進めるという基本方針に基づき、飛躍的な成長に向けた歩みを着実に進展させることで、企業価値の向上に努めます。

宝酒造グループでは、国内酒類事業においてブランド育成を加速させ、消費者の皆様へ支持される強いブランドを複数築くことで、収益の確保を目指します。「一刻者」に代表される付加価値の高い個性豊かなブランドの開発・育成に加え、スタンダードゾーンにおいても差別化された品質を持つ極上<宝焼酎>や「焼酎ハイボール」などのブランド育成を加速させ、外部環境の変化に柔軟に対応できる企業体質の実現を目指し、商品ラインナップを強化します。また、継続的なコストダウン施策を通じて、原材料価格の上昇傾向等に対応し、収益力の維持に努めます。

成長事業として成果が現れ始めている加工業務用調味料事業においては、ユーザーニーズに合わせた商品提案・営業活動を実施し、さらなる成長を目指します。海外事業では、米国、欧州での展開を加速させるとともに、グローバルな人材の育成を進め、他地域における新規提携の可能性についても検討を進めていきます。2011年3月期（以下、今期）からフーデックス社が連結対象となることで、海外売上は自ずと拡大されますが、それ以外の部分でも海外売上を拡大させていく方針です。今後は、酒類・調味料事業の海外比率を上昇させ、国内の人口減少にも対応できる強固な収益基盤として一層強化してまいります。

タカラバイオグループでは、遺伝子工学研究分野において、新製品・新サービスの開発を加速させるとともに、海外マーケティングを強化することで、安定的に収益を確保していきます。医食品バイオ分野においては、健康志向食品およびキノコの売上拡大を目指す一方、キノコの新規栽培技術の導入によるコストダウンや、効果・効率的な費用投下を通じて収益を改善し、2012年3月期の営業黒字化を目指します。この両分野をバイオ事業における収益基盤として、遺伝子医療分野における臨床開発を推し進めることで、遺伝子治療・細胞医療の早期商業化を目指します。

宝ヘルスケアでは、フコイダンを中心に通販ルートの売上を拡大し、効率的な顧客獲得を通じて収益を改善していきます。

当社グループの今後の成長投資については、今回のフーデックス社の株式取得と同様に、既存事業との相乗効果が望める事業や、既存事業の周辺領域において選定を進め、当社グループの成長に資する事業であることを重視して投資判断を行っていく方針です。

### ■ 2011年3月期の各事業の重点施策

<b>宝酒造グループ</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 国内酒類事業においてブランド育成を加速させ収益力を強化</li> <li>■ 継続的なコストダウン施策で原材料価格の高騰に対応</li> <li>■ 加工業務用調味料事業および海外事業の成長を加速</li> </ul>
<b>タカラバイオグループ</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 新製品投入や海外マーケティング強化による遺伝子工学研究分野の売上拡大</li> <li>■ 健康志向食品・キノコの販売拡大などによる医食品バイオ分野の第2の収益事業化</li> <li>■ 遺伝子治療・細胞医療の早期商業化に向けた臨床開発の推進</li> </ul>
<b>宝ヘルスケア</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ フコイダンを中心とする通販ルートの売上拡大</li> <li>■ 効率的な顧客獲得による収益改善</li> </ul>

# Q4

## 今期の業績見通しと、株主還元についてお聞かせください。

第7次中計で掲げた最終年度の目標には届かないものの、増収増益とさらなる成長を目指して取り組みます。また、配当と自己株式の取得を合わせ積極的な株主還元を継続します。

今期の連結業績見通しは、売上高が1,950億円、営業利益が88億円、経常利益が89億円、当期純利益が47億円を予想しています。宝酒造グループ、タカラバイオグループともに増収増益を見込んでおり、連結業績でも当期実績を上回る見通しです。しかしながら、2008年5月に公表した第7次中計の財務目標である売上高2,000億円以上、経常利益100億円以上という数値には、残念ながら届かない見込みとなっています。その背景には、2008年秋に勃発したリーマン・ショックなどの想定外の景気悪化や、急速な円高進行による為替の影響がありますが、今期は増収増益を目指すとともに、将来に向けた成長事業の育成も積極的に推進してまいります。

株主の皆様への利益還元については、安定的な配当の継続を基本としつつ業績連動の要素も加味した配当と、資本効率の向上に資する自己株式の取得を併せて実施する方針としております。第7次中計では、株主還元総額が3ヵ年累計で100億円以上、株主還元性向\*が50%以上という具体的な数値目標を掲げ、積極的な株主還元に取り組んでいます。

当期は前期同様、1株当たり8円50銭の配当とさせていただきます。加えて、13億66百万円の自己株式取得も実施したことにより、株主還元総額は31億55百万円、株主還元性向は60.6%となりました。

今期は、当期と横ばいの配当を予定しており、2010年5月から6月に実施した250万株の自己株式取得と合わせて、株主還元総額は30億円規模、株主還元性向は50%以上となる見込みです。継続的な株主還元の実施により、3ヵ年累計の株主還元総額は100億円以上となり、第7次中計で掲げた財務目標を達成する見込みです。

株主の皆様におかれましては、引き続きご支持を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

2010年7月  
代表取締役社長

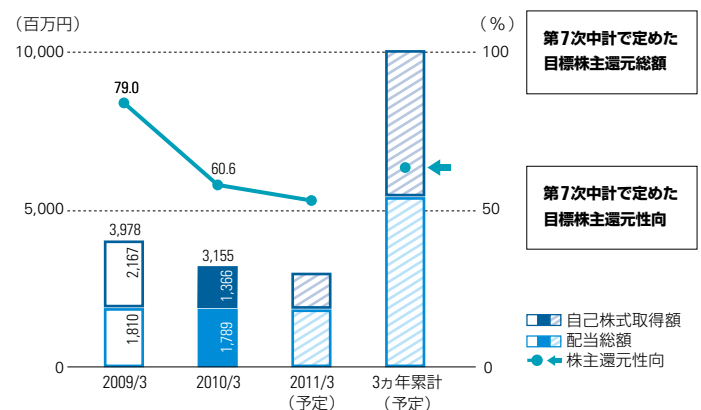
大宮久

### ■ 2011年3月期業績予想

(単位:百万円)

	2011年3月期 予想	第7次中計 3年目計画	中計3年目計画比	
			増減	比率(%)
売上高	195,000	204,200	▲9,200	▲4.5
営業利益	8,800	10,200	▲1,400	▲13.7
経常利益	8,900	10,200	▲1,300	▲12.7
当期純利益	4,700	5,100	▲400	▲7.8

### ■ 株主還元



\* 株主還元性向 = 「株主還元総額 (配当総額 + 自己株式取得額)」 ÷ 「みなし連結当期純利益」\*\*

\*\* みなし連結当期純利益 = (連結経常利益 - 受取利息・配当金 + 支払利息) × (1 - 法定実効税率)

# Established Strengths, Sustained Progress

TaKaRaグループは、事業環境の先行きを見据え、自社の強みを活かすための施策を実施してまいりました。ここでは、これまで築き上げてきた事業戦略の成果と次の成長に向けた戦略の進捗をご紹介します。

## Established Strengths

事業基盤を支える確かな強み

### ■ 酒類・調味料事業

多様な消費者ニーズに応える高付加価値商品の育成

### ■ バイオ事業

利益を伴う成長事業への躍進

## Sustained Progress

次の成長に向けた着実な歩み

### ■ 酒類・調味料事業

成長事業育成に向けた取り組み

### ■ 健康食品事業

宝酒造とタカラバイオのシナジーを活かし、将来の収益の柱へ育成

### ■ バイオ事業

遺伝子治療の臨床開発が着実に進展

# Established Strengths

事業基盤を支える確かな強み

## ■ 酒類・調味料事業

### 多様な消費者ニーズに応える高付加価値商品の育成

国内酒類事業は、景気低迷を背景とした消費者の節約志向に直面し、厳しい事業環境が継続しています。こうしたなか、宝酒造は、2010年3月期においても、単体で前期並みの営業利益を確保しました。これは、多様な消費者の嗜好に対応すべく、商品ラインナップを拡充してきた成果です。

### 宝酒造の商品提案力

1970年代の宝焼酎「純」による焼酎需要の復興や、1980年代のタカラ can チューハイによるソフトアルコール飲料市場の創造など、宝酒造が生み出した数々のヒット商品は、日本人がお酒に対して抱く考え方を変化させるほどの影響力がありました。これらの商品には、「お酒の新しい飲み方」や「生活シーンへの深い関わり」といった従来の商品にはない提案があり、消費者の支持を集めたのです。宝酒造のブランド力は、時代をとらえた斬新な商品を消費者に送り届けてきた、確かな実績の積み重ねにより築き上げられました。

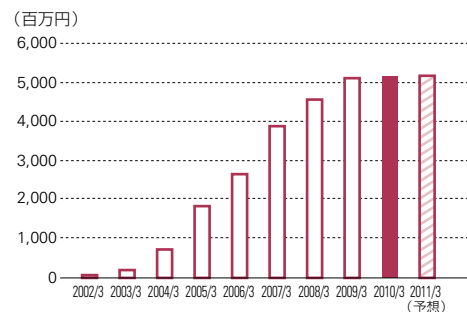
競争の激しい現在の市場環境においても、先人が残してきた偉大な実績の後に続く商品を育てるべく、ブランド力強化を顧客の維持・獲得のための重点項目と位置付け、高付加価値商品を提案し続けています。以下では、高付加価値商品の代表である全量芋焼酎「一刻者」、本格麦焼酎「知心剣」、松竹梅「白壁蔵」<生酏純米>をご紹介します。

#### 独自の技術力で実現した“芋100%”の全量芋焼酎「一刻者」



2001年に発売された「一刻者」は、麴原料にも芋を使用した“全量”芋焼酎。芋麴の製造は極めて難しく、一般的な芋焼酎には米麴が使用されています。しかし、宝酒造は長年培ってきた技術を用いることで良質な芋麴の製造を可能にしました。良質な芋麴で造った「一刻者」は、芋本来の甘い香りと上品な味わいで消費者の支持を集め、現在では50億円以上を売り上げる大型商品に成長を遂げています。

#### 一刻者 売上高推移



#### 麦本来の香りと味わいを追求した本格麦焼酎「知心剣」

2008年に発売された「知心剣」は、4年2ヶ月もの開発期間を費やして誕生したこだわりの本格麦焼酎。国産の二条大麦を100%使用し、仕込には黒麴を用いた全量麦麴仕込の手間隙かけた逸品です。「知心剣」は、業務用ルート限定で先行発売し、消費者の支持を獲得した2009年8月に一般ルートでの販売を開始。じっくりとブランド育成を進めています。



#### 伝統の“生酏造り”で米の旨みを引き出した清酒 松竹梅「白壁蔵」<生酏純米>

2008年に発売された松竹梅「白壁蔵」<生酏純米>は、「本当に旨くてよい酒」を求め、蔵づくりから始めるという構想の下に誕生した「松竹梅白壁蔵」で生み出された清酒。江戸時代から続く伝統技法“生酏造り”で仕込まれ、米の旨みを十分に感じる、まろやかでやわらかい味わいが特徴です。全国各地の飲食店とタイアップしたファンづくりイベントを通じ、食中酒としてブランド育成を進めています。



## ブランド育成の方向性

宝酒造グループでは、二極化する消費者ニーズに対応し、「こだわりゾーン」と「スタンダードゾーン」の双方においてブランドの強化を進めています。「差別化された高付加価値なブランドの集合体」を実現し、景気変動の影響を受けにくい強固な事業基盤を確立します。

### ブランド育成の考え方

#### こだわりゾーン

消費者の高品質ニーズに応え、じっくりとブランド育成を行う商品カテゴリー

##### ■ 主な商品

全量芋焼酎「一刻者」  
本格麦焼酎「知心剣」  
松竹梅「白壁蔵」<生酛純米> etc.



#### スタンダードゾーン

消費者の節約・低価格志向に応え、販売量の確保と収益基盤の強化につなげる商品カテゴリー

##### ■ 主な商品

極上<宝焼酎>  
焼酎ハイボール  
松竹梅「天」 etc.



「差別化された高付加価値なブランドの集合体」の実現を目指す

## ■ バイオ事業

### 利益を伴う成長事業への躍進

「遺伝子工学研究分野」という確固たる事業基盤を有し、遺伝子医療の商業化に向けて事業を加速させるタカラバイオグループ。事業基盤の確立に向けた歩みは、2005年にバイオ研究用試薬の製造・販売を行うクロンテック社を買収したのを機に加速しました。2010年3月期には、3期連続となる営業黒字を達成し、収益性と成長性を両立する事業へと着実に成長を遂げています。

### グローバルマーケットでの地位を築いた遺伝子工学研究分野

1979年、国産初となる制限酵素の発売により、事業を開始した遺伝子工学研究分野。以来、次々と新しい遺伝子工学技術を生み出し、大学などの公的機関、製薬会社等の民間企業が進めるバイオテクノロジー研究を支援してきました。

収益基盤の強化において、重要な役割を果たすPCR法（ポリメラーゼ連鎖反応法）に着目したのは、1988年のこと。米国企業からPCR法による遺伝子増幅システムの国内独占販売権を獲得しました。1993年にはPCR法に関するライセンスを受け、PCR関連製品の自社製造・販売を開始。PCR法がバイオテクノロジー研究に欠かせない必須技術のひとつとなった今日、タカラバイオは、高い正確性、優れた伸長性および確実性を併せ持つPCR酵素など、その高い技術力で生み出した様々な製品により、世界市場において確かな存在感を示しています。

タカラバイオグループでは、収益基盤である「遺伝子工学研究分野」において、新製品開発、海外売上上の拡大、中国への製造移管による価格競争力の強化などを通じ、さらなる事業強化を進めてまいります。

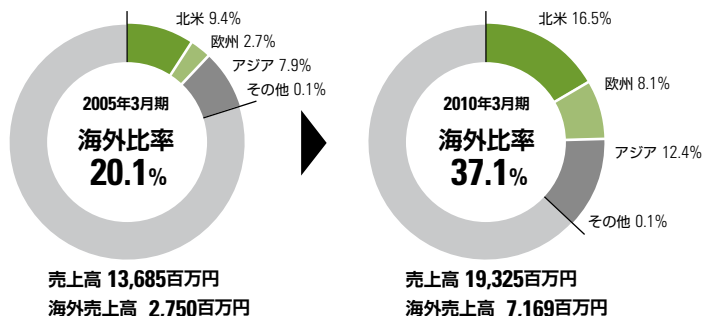


PCR関連製品のひとつ リアルタイムPCR装置

### クロンテック社の買収と海外比率の拡大

2005年、蛍光タンパク質を用いた遺伝子機能解析システムなどの分子生物学分野に強みを持つ米国クロンテック社を買収しました。これにより、従来から強みを持つ遺伝子工学研究用酵素やPCR関連技術などの遺伝子工学分野だけでなく、分子生物学分野の製品ラインナップも拡充されました。幅広い研究用試薬の製品ラインナップは、海外での売上拡大に大きく寄与しています。

#### 海外比率の拡大



# Sustained Progress

次の成長に向けた着実な歩み

## ■ 酒類・調味料事業

### 成長事業育成に向けた取り組み

宝酒造グループでは、海外事業と加工業務用調味料事業を成長事業として位置付け、積極的な事業拡大に努めています。

#### 海外事業

宝酒造が本格的に海外市場に打って出たのは1982年。米国の沼野酒造に資本参加（翌年、米国宝酒造に改称）し、清酒「松竹梅」の現地生産を開始しました。現在では、米国および中国に製造拠点を保有し、清酒と調味料の2つのカテゴリーを柱に、全世界における売上拡大に向けて事業を推進しています。

そのような中、米国宝酒造では、2010年3月期までに製造能力を1.2倍（2007年比）に増強し、2012年には1.5倍（2007年比）にまで拡大する計画が進んでいます。また、日本食レストランに加え、西海岸の米国系食品スーパーや、東海岸の米国系リカーストアや高級飲食店への清酒「松竹梅」の導入を促進しています。さらに、日本食の普及が進む欧州での販路拡大に向けた施策も実施しています。



米国のスーパーに並ぶ清酒「松竹梅」

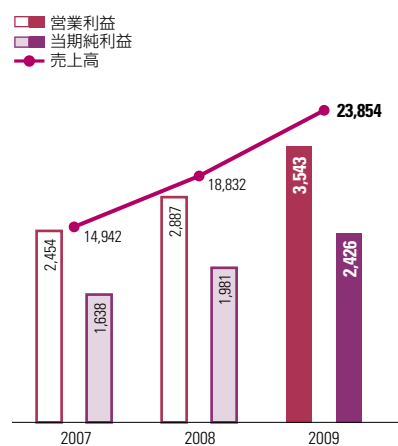
#### 仏FOODEX SASへの資本参加

2010年4月にフランス最大規模の日本食材輸入卸会社であるFOODEX SAS（以下、フーデックス社）の株式の80%を取得しました。この株式取得により、宝酒造グループとして欧州における卸事業に参入することで、日本食材流通の拡大および日本食文化のさらなる浸透を図るとともに、そのシナジーを活かして、清酒や調味料の売上拡大を目指します。

##### フーデックス社の概要

- (1) 事業内容： 酒類・食品・調味料等の輸入・卸売業
- (2) 代表者： Nicolas Mercier
- (3) 設立年月日： 1992年6月29日
- (4) 子会社： FOODEX SARL（スイス）、FOODEX SRL（イタリア）、FOODEX SUD SARL（南フランス）※いずれも100%子会社
- (5) 従業員数： 単体39名、連結46名
- (6) 決算期： 12月31日

##### フーデックス社の業績推移 (千ユーロ)



#### 加工業務用調味料事業

少子高齢化・人口減少が進展し、国内の食市場は縮小傾向にある一方、核家族化・世帯数の増加によって、中食市場は今後の成長が見込まれます。これを見据え、加工業務用調味料事業を成長事業のひとつに位置付けて中食市場の開拓を進めています。

2006年4月、宝酒造に調味料加工業務用事業本部を設置し、加工業務用調味料の営業活動を加速させる体制を整えました。以来、ユーザーの求める経済性と機能性を両立する商品ラインナップを取り揃え、着実に新規ユーザーの獲得を積み上げる一方、大口ユーザーの確保へ注力してきました。この結果、2010年3月期は、売上高で前期比5%程度の増収となり、成果が現れてきました。

今後も引き続き、ユーザーニーズに合わせた商品提案に加え、それぞれのユーザーのもつ課題を解決する営業提案を行うことで、信頼関係の構築と取引数量の拡大を図っていきます。



加工業務用調味料  
「京寶」低アルコール本みりん（上）、  
かつお節調味液「だしるべKP-1」（下）

## 健康食品事業

### 宝酒造とタカラバイオのシナジーを活かし、 将来の収益の柱へ育成

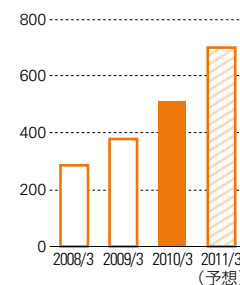
2006年9月、宝酒造の機能性食品事業とタカラバイオの健康志向食品事業とのシナジーを最大化するためにグループ内の事業を再編して誕生した宝ヘルスケア。タカラバイオの健康志向食品の開発力と宝酒造のマーケティング力、販売ノウハウを活用することで、グループの健康食品事業の拡大を加速させています。

#### 健康食品事業の基本方針

宝ヘルスケアの商品は、タカラバイオが長年研究してきた機能性食品素材を商品化したもの。主力素材であるガゴメ昆布「フコイダン」を中心に、通信販売ルートでの顧客獲得を順調に進めています。

まだ事業規模は小さいものの、「TaKaRa フコイダンサプリ50」を中心に、マーケティング費用を効率的に投下することで、リピート率の向上、上位品への移行を促進し、通信販売ルートの売上をさらに拡大させていきます。

通信販売ルート売上高推移  
(百万円)



TaKaRa フコイダンサプリ50

## バイオ事業

### 遺伝子治療の臨床開発が着実に進展

2008年10月、国立がんセンター中央病院(現:国立がん研究センター中央病院)において、再発白血病などを対象とした体外遺伝子治療(HSV-TK 遺伝子治療)の治験が国内で初めて開始されました。早期の薬事承認を目指し、臨床開発を推進していきます。

#### 商業化に向けた着実な進展

遺伝子医療分野における進展は、HSV-TK 遺伝子治療にとどまりません。三重大学医学部と共同で実施しているTCR 遺伝子治療では、2009年8月に臨床研究を開始。加えて、この臨床研究を中心とする複合的がん免疫療法の研究開発プロジェクトが、NEDO(独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構)の推進する橋渡し研究推進合同事業に採択されました。この事業は、先端的な医療を実用化するために文部科学省と経済産業省/NEDOが連携して実施する事業であり、実用化への加速が期待されます。

細胞医療においても、京都府立医科大学と共同で実施していた、消化器がんおよび肺がんを対象とするレトロネクチン拡大培養法を用いたがん免疫細胞療法の臨床研究が2010年4月に終了し、安全性を示す結果が得られました。これを受け、同療法を「レトロネクチン®誘導Tリンパ球療法」と命名し、医聖会 百万遍クリニック(京都市)で有償治療を開始しました。また、引き続き、有効性を確認する目的で臨床研究を実施しています。

タカラバイオでは、今後も遺伝子治療・細胞医療の早期商業化に向け、臨床開発を進めてまいります。

#### 遺伝子治療・細胞医療の臨床開発

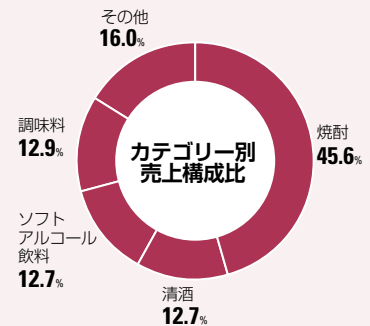
	対象疾患	提携先	現状・今後
HSV-TK 遺伝子治療 (ドナーリンパ球輸注療法)(治験)	再発白血病	国立がん研究センター中央病院	・2008年10月に第I相臨床試験開始 ・2011年度に終了予定
HSV-TK 遺伝子治療 (ハプロ add-back)(臨床研究)	造血器悪性腫瘍	国立がん研究センター中央病院	・2009年12月に臨床研究開始 ・2012年度に終了予定
TCR 遺伝子治療・wtMA24(臨床研究)	食道がん	三重大学医学部	・2009年8月に臨床研究を開始 ・2012年度に終了予定
TCR 遺伝子治療・siMA24(RN-T)(臨床研究)	食道がん	三重大学医学部等	・2012年度に臨床研究を開始予定
TCR 遺伝子治療・siWT24(RN-T)(臨床研究)	脳腫瘍・造血器腫瘍・大腸がん	三重大学医学部等	・2012年度に臨床研究を開始予定
MazF 遺伝子治療	HIV	ペンシルベニア大学、鹿児島大学、 医薬基盤研究所	・米国での臨床試験を2011年度に開始予定
レトロネクチン®誘導Tリンパ球療法 (臨床研究)	食道がん・卵巣がん等	三重大学医学部等	・2008年3月に臨床研究を開始 ・2011年度に終了予定
	肝細胞がん	京都府立医科大学	・2010年7月より臨床研究を開始予定 ・2015年度に終了予定
	難治性がん・肝細胞がん	天津医科大学・中山大學	・天津医科大学、中山大學で有償治療の申請済み

■ 遺伝子治療 ■ 細胞医療

# 事業概要

## 宝酒造グループ

TaKaRaグループのコア事業である酒類・調味料事業の歴史は、1842(天保13)年までさかのぼります。以来160有余年にわたり、時代や消費者が求める価値観や嗜好に対して、常に独創的で確かな技術に裏づけられた安心できる商品を提供することを使命に活動を続けています。その商品カテゴリーは、焼酎、清酒、ソフトアルコール飲料、ワイン、ウイスキー、中国酒、調味料、原料用アルコールなど幅広く展開しており、また日本国内のみならず、米国、中国、欧州の子会社を通じて、グローバルな事業展開を行っています。



## 焼酎

長年培ってきた独自の蒸留技術や貯蔵技術によって、時代が求める焼酎を追求し、市場を創造し続けることで、焼酎市場の発展に貢献してきました。甲類焼酎では、伝統と安心の焼酎No. 1ブランド“宝焼酎”をはじめ、樽貯蔵熟成酒を3%ブレンドしたひとクラス上の宝焼酎“極上<宝焼酎”、発売から30年以上のロングセラーを続ける“宝焼酎「純」”など、品質で差別化されたブランドによりトップシェアを堅持しています。また、本格焼酎市場においても、芋100%にこだわった“全量芋焼酎「一刻者」”、麦本来の味わいを追求した“本格麦

焼酎「<sup>しらしんけん</sup>知心剣”など、様々な原料において独自の技術による品質にこだわった商品を開発・育成しています。



売上高  
(百万円)



## 清酒

松竹梅は、「よろこびの清酒」として、慶祝・贈答市場におけるトップブランドの地位を確立しています。2001年には「本当に旨くてよい酒とは何か」を徹底的に追求するため、伝統的な手造りの原理を再現した最新鋭の設備と人の手で行う酒造りの両方を併せもった松竹梅<sup>しらかべくら</sup>白壁蔵(神戸市東灘区)を完成させました。ここでは“松竹梅「白壁蔵」<<sup>まこと</sup>生酏純米”などの特定名称酒を製造しています。また、晩酌市場では二段酵母仕込により「コクがあってすっきり辛口」の“松竹梅「天」”が多くのお客様からご支持をいただいています。業務用市場

においては“松竹梅「豪快」”が、「爛で冴える辛口」として好評です。これからも松竹梅は造りや原材料にこだわり、お客様に満足していただける高品質で個性的な商品を提案していきます。



売上高  
(百万円)



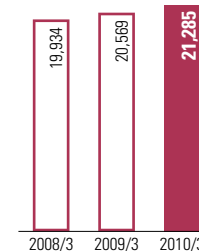
## ソフトアルコール飲料

1984年に日本初の缶入りチューハイとして衝撃的なデビューを飾った“タカラcanチューハイ”は、時代をとらえた商品として、その後の缶チューハイ市場をリードし、また厳選された「焼酎」「果汁」「水」と確かな技術に裏づけられたこだわりの品質は、今も多くのお客様からの高いご支持をいただいています。また、下町の大衆酒場で愛される辛口チューハイの味わいを追求した“TaKaRa「焼酎ハイボール」”、「ストレート混濁果汁」を使用し、果汁のおいしさに徹底的にこだわった“タカラCAN

チューハイ「直搾り」や、糖類不使用で果汁50%の“TaKaRa「おいしいチューハイ」”など、お客様の様々な嗜好にお応えできるこだわりの商品を開発・育成していきます。



売上高  
(百万円)



## 調味料

「お酒のチカラでもっとおいしく」をテーマに、本みりんのトップブランドとして日本の食文化とともに進化・発展を続けてきた“タカラ本みりん”や、素材の生臭みを消し、料理に深いコクとうまみを与える“タカラ「料理のための清酒」”など、料理をおいしく、食卓を豊かにする様々な酒類調味料をご提案しています。また、加工業務用市場に向けては、お惣菜や加工食品などに適した酒類調味料やだし調味料など、加工業務用専用の「京寶」ブランドをはじめとする商品を取り揃えるとともに、食品分析やアルコールの調理効果研究、レシピ

開発など、お客様とともに様々な課題解決に取り組んでいます。



売上高  
(百万円)



## 海外

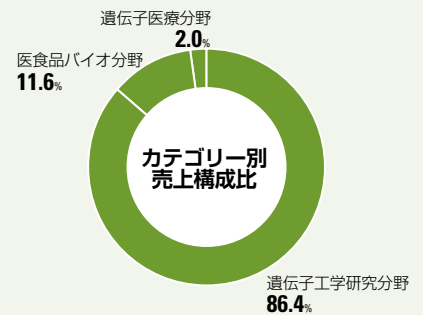
おいしくヘルシーな食事として日本食が注目を浴びグローバル化されるのに伴って、清酒やみりんも普及しており、現在欧米やアジアを中心に世界40カ国以上の国々で清酒「松竹梅」、タカラみりんをはじめとする宝製品が親しまれています。清酒、みりん、焼酎などの日本の味わいを紹介していくことによって、日本の食文化を世界中に広めていきたいと考えて取り組んでいます。またスコッチウイスキー、バーボンウイスキーの製造・販売にも取り組んでおり、さらにグローバルに事業を展開しています。



米国宝酒造(株)

## タカラバイオグループ

TaKaRaグループのバイオ事業の使命は、遺伝子治療などの革新的なバイオ技術の開発を通じて、人々の健康に貢献することです。その実現を担うタカラバイオグループでは、技術および収益の基盤である「遺伝子工学研究分野」で安定的な収益を稼ぎ出し、「医食品バイオ分野」を第2の収益事業へ育成し、「遺伝子医療分野」に経営資源を投入して遺伝子治療・細胞医療の商業化を目指しています。



## 遺伝子工学研究分野

世界のバイオ研究者を対象に、研究用試薬および理化学機器の製造販売や研究受託サービスなどを提供しています。売上高の約9割、全ての営業利益を稼ぎ出す、タカラバイオグループの収益の柱です。

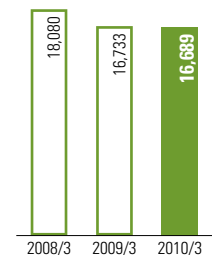
研究用試薬・理化学機器においては、遺伝子増幅法として幅広く利用されているPCR法に関するライセンスを受け、高い正確性、優れた伸長性および確実性を併せもつPCR酵素や、伸長性に優れた逆転写酵素などを全世界に提供し続けています。2005年9月には米国クロンテック社を買収し、研究用試薬のラインナップを大幅に拡充するとともに、海外での売上を拡大しています。また、クロンテック社製品の製造を米国から中国に移管するなど、利益面の相乗効果創出に向けた取り組みを続けています。

研究受託サービス事業では、ゲノム解析センターであるドラゴンジェノミクスセンターを中心に、

ゲノムの配列解析や次世代シーケンス技術を利用した高速シーケンス解析、DNAチップを用いた遺伝子発現解析などを行っており、総合的な研究受託サービス体制を整えています。

研究開発では、クロンテック社とのシナジーを活かしながら、遺伝子工学分野に加え、研究が活発化している人工多能性幹細胞(iPS細胞)など、成長が見込まれる細胞生物学分野に注力しています。今後も、バイオ研究を取り巻く急激な技術革新に迅速に対応し、新サービスの提供を行っていきます。

売上高  
(百万円)



研究用試薬



リアルタイムPCR装置

## 医食品バイオ分野

医食品バイオ分野は、日本古来の食材をバイオテクノロジーで解析し、その成果を健康志向食品として消費者の皆様にお届けする健康志向食品事業、キノコの生産販売やライセンスなどを行うキノコ事業で構成されています。

健康志向食品事業は、TaKaRaグループの健康食品事業の製品開発を担っており、ガゴメ昆布「フコ

イダン」、寒天「アガロオリゴ糖」、明日葉「カルコン」、キノコ「テルペン」、ヤムイモ「ヤムスゲニン®」、ボタンボウフウ「イソサミジン」などの生理活性に関する研究を進めています。これらの機能性素材を活用した健康志向食品は、宝ヘルスケア社を通じて販売しています。

キノコ事業においては、1973年に世界で初めて

売上高  
(百万円)



成功したブナシメジの大量生産技術に加え、ハタケシメジやホンシメジの生産技術も有しています。現在ではJA全農長野などへ大量生産技術などのライセンス事業を推進するとともに、ハタケシメジやホンシメジなどの自社生産販売にも取り組んでいます。2011年3月期にはホンシメジ約120トン、ハタケシメジ約1,500トンの生産を見込んでいるほか、タカラバイオが持つ栽培技術やゲノム解析

技術などを活用した高付加価値キノコの新規生産技術の開発を進めています。



ホンシメジ

## 遺伝子医療分野

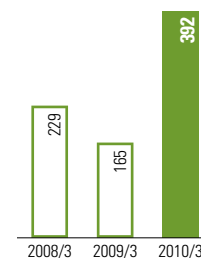
遺伝子工学研究分野で培われたテクノロジーを利用して、遺伝子医療（遺伝子治療、細胞医療）に必須な中核技術を開発し、その商業化を目指しています。

この分野における中核技術の一つが、インディアナ大学と共同開発したレトロネクチン法です。この技術によって、体外遺伝子治療において、造血幹細胞などの血球系細胞への高効率遺伝子導入が可能となりました。タカラバイオは、レトロネクチン法の全世界における独占的実施権を保有しています。二つ目の中核技術が、レトロネクチン®を用いたリンパ球の拡大培養法です。この技術には、抗原認識能力の高いナイーブT細胞を多く含む細胞集団が大量に得られる利点があり、遺伝子治療や細胞

医療に用いられています。タカラバイオは、これらの技術を積極的に全世界にライセンスアウトしていくことで、技術の普及と収益の拡大を目指しています。

さらに、自社プロジェクトとしても、遺伝子治療の臨床開発を進めています。2008年には国立がん研究センターと治験契約を締結し、同センター中央病院にて、再発白血病を対象とした体外遺伝子治療の治験を国内で初めて開始しました。また細胞医療においては、レトロネクチン®誘導Tリンパ球療法（注）の臨床開発や、がん免疫細胞療法に関する支援事業を国内外の医療機関と提携して展開しています。

売上高  
(百万円)



レトロネクチン®

## 宝ヘルスケア

宝ヘルスケアは、TaKaRaグループの持つ独自素材や技術を活かした安心・安全な健康食品を、お客様へ直接お届けするダイレクトマーケティングを通じて、人々の健康で生き生きとした生活を応援しています。その具体的な役割は、タカラバイオが素材の研究・開発を行い、研究データを蓄積した上で、宝ヘルスケアと共同で製品開発を行います。そして宝ヘルスケアは、タカラバイオから製品の供給を受けて、マーケティング活動や通信販売を中心とする販売活動を行います。この一連の取り組みの中でお互いのシナジーを追求し、健康食品事業の成長を加速させていきます。



TaKaRa健康通販トップページ



左から  
TaKaRaフコイダンサプリ50  
明白薬カルコン  
クーガイモ  
屋久島のめくみ牡丹防風

# 宝ホールディングスの歴史

2010年4月1日現在

- 1925年 寶酒造株式会社 創立
- 1949年 株式を上場
- 2000年 長期経営構想「TaKaRa Evolution-100 (TE-100)」スタート
- 2002年 持株会社体制へ 持株会社 宝ホールディングス 株式会社 設立
- 2006年 グループ内の事業を再編し「宝ヘルスケア株式会社」設立
- 2008年 TaKaRaグループ第7次中期経営計画 スタート

## 酒類・調味料事業

- 1842年 酒造業を開始
- 1916年 自社で新式焼酎・新式みりんの製造を開始
- 1933年 松竹梅酒造株式会社 設立  
清酒「松竹梅」の販売を開始
- 1957年 ビール事業進出(「タカラビール」発売)
- 1967年 ビール事業撤回
- 1970年 醗酵調味液「味しるべ」発売
- 1972年 中国酒の輸入販売開始
- 1977年 宝焼酎「純」発売
- 1979年 “カムバック・サーモン・キャンペーン”開始
- 1983年 米国宝酒造株式会社 設立
- 1984年 タカラcanチューハイ 発売
- 1986年 「TaKaRa バービカン」発売
- 1993年 特定保健用食品として「カルシウムバーラー」認可
- 1994年 本格米焼酎「よかいち」全国発売
- 1995年 合併会社、北京寛宝食品有限公司(現・宝酒造食品有限公司)設立
- 1998年 緑字決算報告書(現・緑字企業報告書)を発行  
ワイン事業に本格参入



宝焼酎「純」



米国宝酒造

- 2000年 OCIA認証「特撰タカラ有機本みりん」発売
- 2001年 株式会社ラック・コーポレーションの株式を取得  
全量芋焼酎「一刻者」発売  
清酒・特定名称酒の拠点として灘工場「白壁蔵」完成
- 2003年3月期 分社・持株会社化により宝酒造株式会社 設立
- 02年 4月 生産拠点の再編
- 03年 3月
- 2004年3月期 松竹梅「天」発売
- 03年 9月
- 2005年3月期 タカラ有機本料理清酒 発売
- 04年 8月
- 2006年3月期 宝チューハイ壺詰 発売
- 05年 9月 「京寶」加工業務用本みりんNなど、  
加工業務用専用ブランド「京寶」導入
- 10月 TaKaRa「焼酎ハイボール」発売  
焼酎「JAPAN」発売
- 06年 3月



全量芋焼酎「一刻者」



松竹梅「天」



加工業務用専用ブランド「京寶」

## バイオ事業

- 1970年 大津市に中央研究所完成  
ブナシメジの人工栽培に成功
- 1979年 国産初の遺伝子工学研究用試薬「制限酵素」を発売
- 1988年 PCR法による遺伝子増幅装置の国内独占販売権獲得
- 1993年 宝生物工程(大連)有限公司 設立(中国大連市)  
全世界にわたる広範囲のPCR関連特許ライセンスを取得
- 1995年 高効率遺伝子導入法であるレトロネクチン法を開発
- 1997年 遺伝子治療研究用試薬「レトロネクチン®」を全世界で発売開始  
米国インディアナ大学においてレトロネクチン法を用いた遺伝子治療の臨床研究を開始
- 1998年 DNAチップ作製装置と解析装置の販売を開始
- 2000年 高速ゲノム解析センター、ドラゴン・ジェノミクス株式会社 設立(02年10月タカラバイオ(株)に吸収合併)  
等温遺伝子増幅法「ICAN法」を開発
- 2002年 コールドショックベクター法を用いたタンパク質発現システムを開発
- 2003年3月期 分社・持株会社化によりタカラバイオ株式会社 設立
- 02年 4月
- 03年 2月 モルメド社(イタリア)と、がん自殺遺伝子治療等に関する遺伝子治療技術のアジア独占実施権について合意



ブナシメジ



レトロネクチン®



DNAチップ

- 2004年3月期 米国VIRxSYS社に遺伝子治療用レトロネクチン®のライセンスを供与
- 03年 5月 タカラバイオ株式会社が第三者割当増資を実施
- 10月 宝日医生物技術(北京)有限公司 設立(中国北京市)
- 04年 1月
- 2005年3月期 飲む寒天(カロリーオフ) 発売
- 04年11月 マツタケのゲノム解析をホールショットガン方式で完了
- 12月 タカラバイオ株式会社 東証マザーズ上場
- 05年 3月 三重大学医学部に、難治性のがんを対象としたT細胞受容体(TCR)遺伝子治療の臨床開発を共同で推進するために、産学官連携講座を設置
- 2006年3月期 国立がんセンターと白血病の遺伝子治療臨床試験を目指した共同研究契約を締結
- 05年 5月 米国BD社からクロンテック事業を買収
- 9月 リアルタイムPCR装置を発売
- 06年 3月
- 2007年3月期 難治性白血病の検査法に関する特許の独占的実施権(日本を除く)を米国インビボ・スクライプ社に供与
- 06年 7月 健康志向食品事業の販売機能を宝ヘルスケア(株)に移管
- 9月
- 2008年3月期 クロンテック社の蛍光タンパク質シリーズを発売
- 07年 8月



飲む寒天(カロリーオフ)

## 健康食品事業

### 2007年3月期

- 06年 6月 長崎運送株式会社(現・長運株式会社)を子会社化
- 9月 飲料事業の既存商品の販売中止を発表
- 10月 東日本クッキングラボ(現・東日本調味料カスタマーセンター)稼動
- 07年 3月 タカラCANチューハイ「直搾り」発売

### 2008年3月期

- 07年 9月 全量芋焼酎「一刻者」〈石蔵甕貯蔵〉発売
- 宝焼酎「純」のラベルデザインをリニューアル

### 2009年3月期

- 08年 8月 本格麦焼酎「知心剣」発売
- 9月 松竹梅「白壁蔵」〈生酛純米〉発売

### 2010年3月期

- 09年 8月 本格麦焼酎「知心剣」の販売ルートを拡大
- 9月 タカラcanチューハイ〈グレープフルーツ〉発売
- 10月 全量芋焼酎「一刻者」〈長期貯蔵原酒〉発売



本格麦焼酎  
「知心剣」



松竹梅「白壁蔵」  
〈生酛純米〉

### 2007年3月期

- 06年 9月 宝ヘルスケア株式会社 設立

### 2008年3月期

- 07年 8月 TaKaRaフコイダンサプリ50 発売
- 9月 クーガイモ 発売
- 08年 1月 株式会社アムスライフサイエンスと資本業務提携

### 2009年3月期

- 08年 6月 明日葉カルコン 発売
- 09年 2月 TaKaRaフコイダン〈カプセル〉発売
- 3月 飲む寒天〈糖類ゼロ〉発売

### 2010年3月期

- 09年 7月 キノコテルペン 発売



TaKaRa  
フコイダンサプリ50

- 08年 1月 急性白血病遺伝子治療の共同開発パートナーであるモルメド社(イタリア)が第Ⅲ相臨床試験をイタリアで開始

- 3月 三重大学にて、食道がん、頭頸部がんなどを対象としたレトロネクチン拡大培養法による「がん免疫再建療法」の臨床研究を開始

### 2009年3月期

- 08年10月 再発白血病に対するHSV-TK遺伝子治療の治験を国立がんセンター中央病院で開始
- 医療法人社団医聖会、タカラバイオの技術支援のもとにがん免疫細胞療法の有償治療を開始
- RNA分解酵素(MazF)遺伝子を導入した細胞に、多剤耐性エイズウイルス臨床分離株に対する抵抗性を賦与できることを確認

- 09年 3月 ヒトiPS細胞作製用試薬を発売

### 2010年3月期

- 09年 4月 レトロネクチン拡大培養法を用いたがん免疫細胞療法の臨床研究を京都府立医科大学で開始
- 6月 中国での細胞培養用培地事業においてコージンバイオ株式会社と基本合意
- 9月 複合的がん免疫療法の研究開発プロジェクトが橋渡し研究推進合同事業に採択
- 11月 レトロネクチン®を用いたリンパ球拡大培養法に関する特許が日本において成立
- 10年 3月 米国でのエイズ遺伝子治療の臨床試験を開始するため、ペンシルベニア大学と共同研究契約を締結



クロンテック社



三重大学内の細胞調製室

※2003年3月期以降は、事業年度(4月1日～翌3月31日まで)での記載となっております。

# コーポレート・ガバナンス

## ■ コーポレート・ガバナンスの基本的な考え方

当社グループでは、コーポレート・ガバナンスの充実を、持続的な企業価値向上のための重要な経営課題と捉え、以下の基本的な考え方のもと、その充実に努めています。

当社グループ全体の企業価値向上のために、

- ① グループ各社に権限を委譲し、自立経営のもと事業の展開スピードをあげ、各社において企業価値向上を追求する。
- ② 会議体の定期的な運営等を通じ、各社の事業報告や今後の経営方針・事業戦略について意見交換しあえる風土を維持することで、グループ全体の企業価値向上を追求する。
- ③ 法令遵守の姿勢や倫理性を確保し、コンプライアンス体制を維持することで、グループ全体での企業の社会的責任を果たす。
- ④ オープンかつタイムリー、そして正確な情報開示を継続し、適時開示に対する社内体制を維持することで、経営の透明性を高める。

## ■ コーポレート・ガバナンス体制について

当社は監査役設置会社であり、2010年6月29日現在、監査役会は5名(うち3名は社外監査役)で構成されています。また、取締役会は10名で構成されており、うち1名は社外取締役です。

この体制下において、監査役監査に加え、株主を含むすべてのステークホルダーの視点に立脚する幅広い見識をもった独立性の高い社外取締役が、監査役会や内部統制担当役員と連携を図り業務執行の監査・監督に関与することで、経営に対する監督機能を強化しています。

また、持株会社として、グループ各社の独自性・自立性を維持しつつ、グループ全体の企業価値の最大化を図ることを目的に「グループ会社管理規程」を制定し、「グループ戦略会議」、「マザー協議連絡会議」、「バイオ連絡会議」、「機能子会社協議連絡会議」を通じて重要案件の事前協議や報告を義務付けるほか、特に急を要する事項や専門性の高い内容については、随時「経営会議」を開催して事前協議を行っています。

## ■ 監査役監査、内部監査および会計監査について

当社の監査役は、取締役会等の重要会議への出席や業務・財産および重要書類の調査ならびに必要なに応じて担当取締役および担当者への聞き取り調査等を実施し、これらを通じて、取締役の職務執行の監査を行っています。内部監査については、被監査部門から独立した監査室を設置し、「内部監査規程」に基づく内部監査を実施して必要な対策を講じることにより、職務執行の適正確保に努めています。なお、監査室、監査役会および会計監査人は、監査計画・監査方針・監査実施状況に関して定期的に意見交換を行うほか、情報・意見交換、協議を行う等、相互連携を図っています。

## ■ コーポレート・ガバナンスに重要な影響を与えうる特別な事情

### 当社の上場子会社タカラバイオ株式会社について

2010年3月31日現在、当社は、タカラバイオ株式会社(東証マザーズ、コード番号4974)の議決権の70.9%を所有する親会社であり、当社と同社の関係は以下の通りです。

#### ① 当社グループにおけるタカラバイオ株式会社の位置付け

タカラバイオ株式会社は、2002年4月1日に、物的分割の方法により当社の100%子会社として設立しました。その後、当社の議決権所有比率は、同社による第三者割当増資、公募増資、新株予約権付社債の発行等により、現在の議決権所有比率となっています。

2010年3月31日現在、当社グループは、純粋持株会社である当社、子会社33社および関連会社6社で構成され、その中でタカラバイオ株式会社はバイオテクノロジー専門の事業子会社として位置付け、当社グループとしてバイオ事業を推進しています。

## ② 当社のグループ会社管理について

タカラバイオ株式会社についても、前述の「グループ会社管理規程」を適用し、同社の取締役会において決議された事項等の報告を受けていますが、取締役会決議事項の事前承認等は求めておらず、同社が独自に事業運営を行っています。

また、「グループ戦略会議」、「バイオ連絡会議」等の会議体では、タカラバイオ株式会社の代表取締役、役員、執行役員等の出席を求めています。これらの会議体は、グループ全体の方針についての討議や、グループ会社間の報告を目的としたものであり、同社の自主性・独立性を妨げるものではありません。

### 当社株券等の大規模な買付行為に対する対応方針（買収防衛策）について

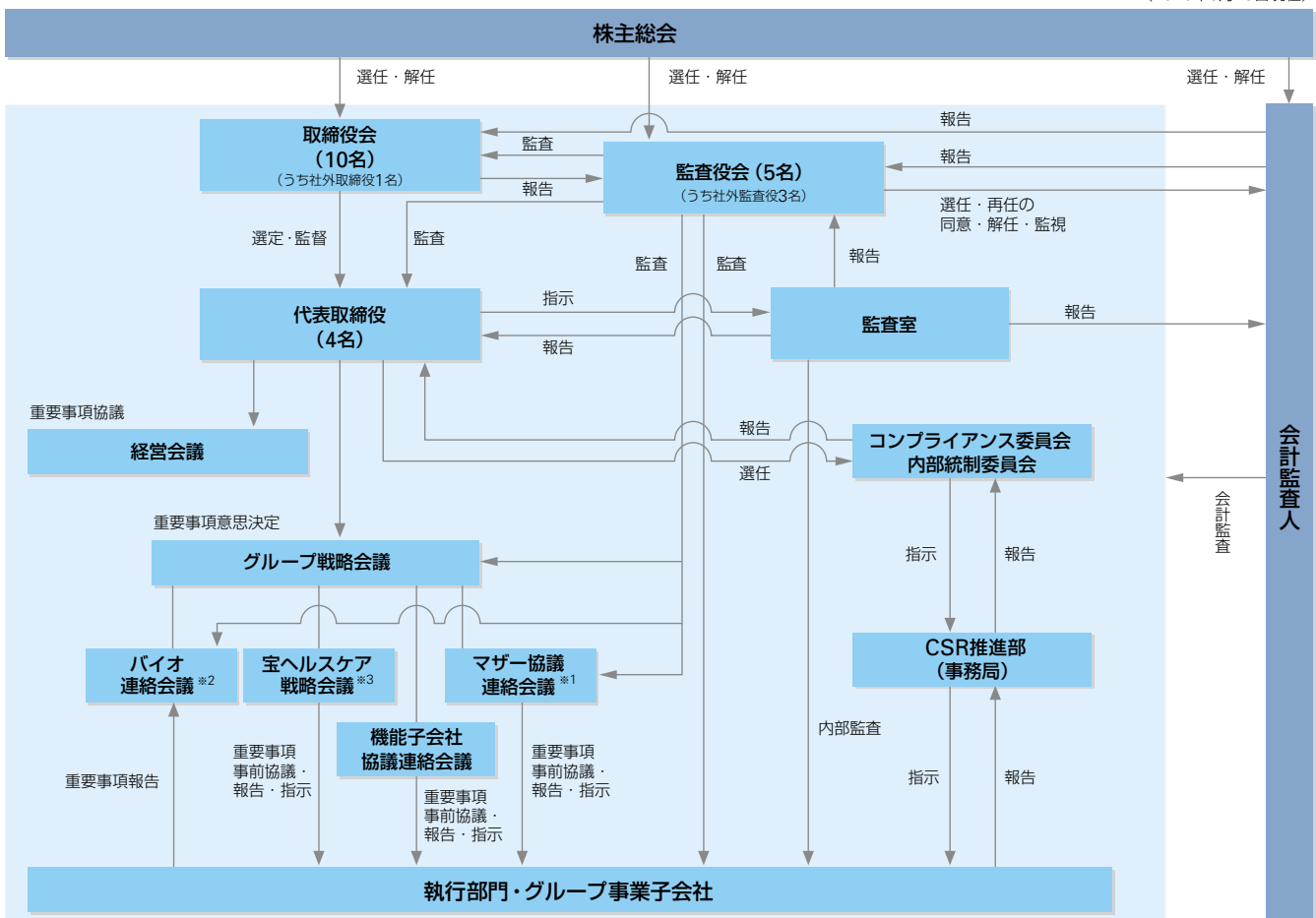
当社は、2006年5月15日の当社取締役会決議により、企業価値、ひいては、株主の皆様の共同の利益を確保し、又は向上させることを目的に、「当社株券等の大規模な買付行為に対する対応方針（買収防衛策）」を導入しました。

しかし、株主の皆様の意思をより多く反映させることが株主の皆様の共同の利益の最大化に資するとの考えから、2007年5月15日開催の当社取締役会において、買収防衛策の導入を当社の株主総会にお諮りして株主の皆様の決議に付すこと、および、対抗措置発動の判断は、原則として当社の株主総会での決議をもって執り行うこと、といった内容を有する買収防衛策に変更することを決議しました。その内容につきましては、当社ホームページ（<http://www.takara.co.jp/>）並びに有価証券報告書、当アニュアルレポートのMDA（英文版のみ）において概要を掲載しておりますのでご参照願います。

なお、2007年6月28日開催の当社第96回定時株主総会において、当買収防衛策の導入が承認可決され、2010年6月29日開催の当社第99回定時株主総会において、その一部変更及び継続が承認可決されています。

## コーポレート・ガバナンス体制 模式図

(2010年6月29日現在)



※1 マザー（酒類・調味料事業）協議連絡会議 ※2 バイオ（バイオ事業）連絡会議 ※3 宝ヘルスケア（健康食品事業）戦略会議

# 役員

2010年6月29日現在



宝ホールディングス株式会社 代表取締役会長  
兼 宝酒造株式会社 代表取締役会長

**後藤 功**



宝ホールディングス株式会社 代表取締役社長  
兼 宝酒造株式会社 代表取締役社長  
兼 タカラバイオ株式会社 取締役会長

**大宮 久**



宝ホールディングス株式会社 代表取締役副社長  
(経営企画・財務・経理・IR・CSR・環境広報統括)  
兼 宝酒造株式会社 代表取締役副社長

**大宮 正**



宝ホールディングス株式会社 代表取締役副社長  
(総務人事・業務革新推進統括)  
兼 宝酒造株式会社 代表取締役副社長

**柿本 敏男**



タカラバイオ株式会社 代表取締役社長  
兼 宝ホールディングス株式会社 取締役

**仲尾 功一**

## ■ 宝ホールディングス株式会社

取締役	<b>矢野 雅晴</b>	(CSR担当・環境広報担当 兼 宝酒造株式会社 取締役)
取締役	<b>松崎 修一郎</b>	(経営企画担当・財務担当・経理担当・IR担当 兼 宝酒造株式会社 専務取締役)
取締役	<b>岡根 孝男</b>	(総務人事担当・業務革新推進担当・総務人事部長 兼 宝酒造株式会社 取締役)
取締役	<b>中尾 大輔</b>	(兼 宝酒造株式会社 専務取締役)
取締役(社外取締役)	<b>植田 武彦</b>	(兼 宝酒造株式会社 取締役)
常勤監査役	<b>釜田 富雄</b>	
常勤監査役(社外監査役)	<b>半田 邦博</b>	
監査役	<b>友村 秀夫</b>	
監査役(社外監査役)	<b>太田 芳枝</b>	
監査役(社外監査役)	<b>香川 孝三</b>	

# 社会・環境活動

## 皆様に「いきいき」をお届けする企業であり続けるために 社会や地球にやさしい「緑字企業」へ

TaKaRaグループは、水や農作物などの自然の恵みを受けて事業活動を行っています。豊かな自然環境なくしては事業が成立しないことから、古くから自然環境に配慮する企業精神が受け継がれ、自然保護活動や環境負荷削減活動に積極的に取り組んでいます。

### お客様の「いきいき」のために

宝酒造では、商品企画から製造・出荷にいたるまでの確かな品質管理体制のもと、お客様に安全で安心していただける商品をお届けしています。また、お客様の健康を考え、適正飲酒の啓発活動や誤認飲酒防止の取り組みも積極的に実施しています。

適正飲酒の推進は酒類を製造販売する企業の重要な責任と考え、1985年の「Say Noキャンペーン」で適正飲酒の啓発にいち早く取り組み、お酒の正しい知識や飲み方をまとめた冊子「Say No読本」（2009年より「お酒おつきあい読本」にリニューアル）を発刊するほか、1995年からは、未成年者飲酒防止、飲酒運転防止のための注意表記を酒類商品に表示しています。

誤認飲酒防止の取り組みでは、1995年に国内で初めてタカラcanチューハイシリーズの缶ぶたに点字で「おさけ」の表示を入れ、2002年には、やはり国内で初めて酒類紙パック商品のキャップに、同様の表示を入れました。



お酒おつきあい読本



缶ぶたに点字を表示



キャップに点字を表示

### 社会の「いきいき」のために

宝ホールディングスは、公益信託「TaKaRaハーモニストファンド」を1985年に設立し、以降毎年、日本の森林や水辺の自然環境を守る活動や、そこに生息する生物を保護するための研究などを行う市民の方々を資金面から援助しています。

2004年4月からは、宝酒造において「TaKaRaお米とお酒の学校」（2008年より「TaKaRa田んぼの学校」にリニューアル）を開催し、お米づくりや田んぼ周辺の自然観察を通して、自然の恵みと命のつながりを学ぶ機会を設けています。

また、NPO法人と共同で飲料容器のリサイクル啓発絵本「リサイクルロード」を制作し、全国の小中学校の希望者に無料配布するなど、次世代を担う子供たちへの啓発活動も実施しています。



TaKaRa田んぼの学校



TaKaRaリサイクルロード



TaKaRa  
ハーモニストファンド

### 地球の「いきいき」のために

宝酒造では、事業活動は基本的に地球環境に負荷を与える行為であるということを受容し、地球環境への負荷軽減や自然保護活動などの社会貢献活動を、企業としての責務と考えています。そして、これらの活動成果を「緑字決算」という形で、1998年以来、社会に公表し続けています。「緑字決算」は、様々な環境負荷や環境配慮、社会活動の中から重要な項目を選定し、その改善度を総合的な収支決算として「ECO（エコ）」という指標で分かりやすく表しています。

さらに、中身のみを販売する「はかり売り」の実施や、容器を再利用できるリターナブルびんの採用、分別作業が容易なエコペットの開発など、お客様と協力して容器の4R（リフューズ：発生回避、リデュース：減量化、リユース：再使用、リサイクル：再資源化）の推進にも取り組んでいます。



緑字企業報告書 (2009)



はずせるキャップ



焼酎のはかり売り

※ 詳細は宝酒造のホームページをご覧ください。http://www.takarashuzo.co.jp/environment/

# 6年間の主要連結財務データ

3月31日終了事業年度

期間項目	単位:百万円						単位:千米ドル
	2010	2009	2008	2007	2006	2005	2010
外部顧客に対する売上高	¥190,525	¥192,790	¥191,878	¥198,535	¥196,119	¥195,359	\$2,048,657
酒類・調味料セグメント	157,755	159,386	156,780	167,665	—	—	1,696,296
バイオセグメント	18,900	18,402	19,793	20,574	—	—	203,226
物流セグメント	8,218	8,779	8,762	5,977	—	—	88,375
その他のセグメント	5,650	6,222	6,540	4,318	—	—	60,759
(旧)酒類・食品セグメント	—	—	—	173,642	176,107	178,068	—
(旧)バイオセグメント	—	—	—	20,574	16,490	13,671	—
(旧)その他のセグメント	—	—	—	4,318	3,520	3,618	—
売上原価	115,805	118,849	117,864	122,325	120,132	119,114	1,245,224
売上総利益	74,719	73,941	74,014	76,210	75,986	76,244	803,433
販売費及び一般管理費	66,146	65,090	65,507	68,550	70,062	68,841	711,254
営業利益	8,572	8,851	8,506	7,660	5,924	7,402	92,179
税金等調整前当期純利益	8,208	8,193	8,321	7,660	7,876	6,813	88,264
当期純利益	4,677	5,639	4,658	4,208	5,320	2,614	50,293
有形固定資産の減価償却費 及びその他の償却費	5,652	5,992	6,384	6,692	6,755	6,393	60,777
資本的支出	3,645	3,616	3,852	3,617	5,633	6,511	39,194
研究開発費	3,665	3,343	3,643	3,593	3,574	3,353	39,416
<b>期末項目</b>							
総資産	¥195,495	¥190,792	¥207,843	¥213,393	¥212,466	¥190,773	\$2,102,102
有利子負債	39,162	39,092	43,717	39,083	39,330	40,347	421,107
純資産	109,206	105,316	113,273	115,570	—	—	1,174,263
自己資本	96,666	93,093	99,969	102,507	101,839	89,478	1,039,422
<b>1株当たり(単位:円):</b>							(単位:米ドル)
当期純利益	¥22.20	¥26.32	¥21.53	¥19.44	¥24.39	¥11.74	\$0.24
配当金	8.50	8.50	8.50	7.50	9.00	7.50	0.09
<b>指標(単位:%):</b>							
総資産当期純利益率	2.4%	2.8%	2.2%	2.0%	2.6%	1.4%	—
自己資本当期純利益率	4.9	5.8	4.6	4.1	5.6	2.9	—
自己資本比率	49.4	48.8	48.1	48.0	47.9	46.9	—

(注) 1. 百万円未満は切り捨てにより算出しております。

2. 米ドルは2010年3月31日現在のレート(近似的に93円/ドル)で便宜換算しております。

3. 事業区分の変更

2008年3月期より、従来「酒類・食品」セグメントに含めておりました「物流事業」をその金銭的重要性が増したため、独立セグメントといたしました。これは、2007年3月期に新たな連結範囲に加えた長崎運送株式会社(現:長運株式会社)が通年寄与することとなったためです。また、飲料事業撤退に伴い、「酒類・食品」セグメントは「酒類・調味料」セグメントと名称変更いたしました。

4. 2007年3月期より「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準」および「貸借対照表の表示に関する会計基準の適用指針」を適用しております。

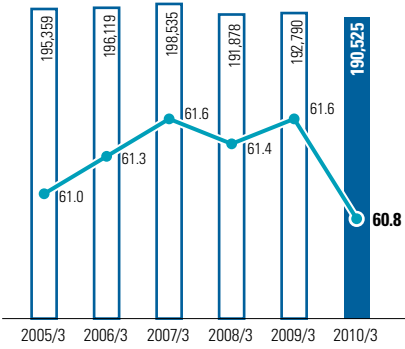
それにより、2007年3月期より、従来の資本の部合計に少数株主持分を加えた額を純資産として記載しております。

5. 2007年3月期より自己資本は、純資産－少数株主持分－新株予約権で計算しております。2006年3月期以前は、従来の資本の部合計を記載しております。

# ファクトシート

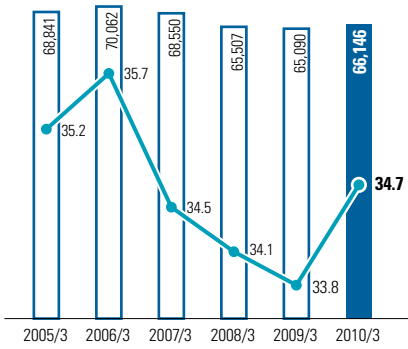
売上高・売上高原価率  
(百万円/%)

■ 売上高  
● 売上高原価率



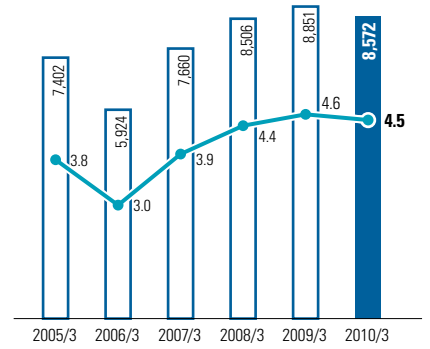
販売費及び一般管理費・売上高販管費率  
(百万円/%)

■ 販売費及び一般管理費  
● 売上高販管費率



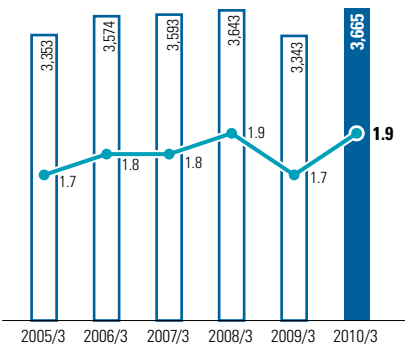
営業利益・売上高営業利益率  
(百万円/%)

■ 営業利益  
● 売上高営業利益率



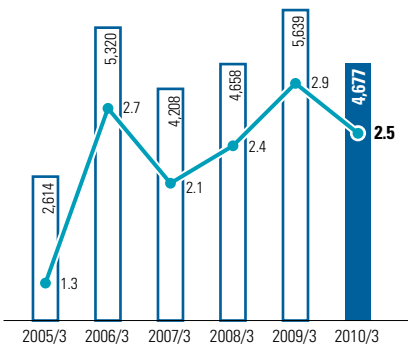
研究開発費・売上高研究開発費率  
(百万円/%)

■ 研究開発費  
● 売上高研究開発費率



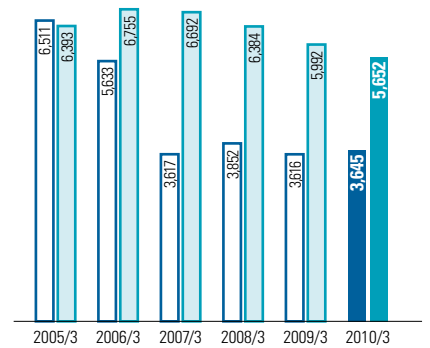
当期純利益・売上高当期純利益率  
(百万円/%)

■ 当期純利益  
● 売上高当期純利益率



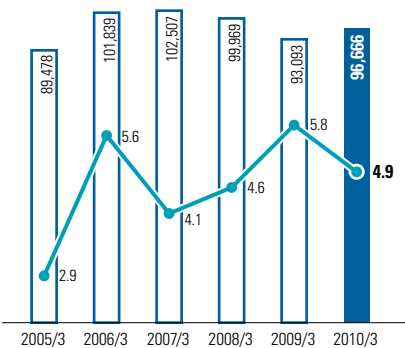
資本的支出・減価償却費及びその他の償却費  
(百万円)

■ 資本的支出  
● 減価償却費及びその他の償却費



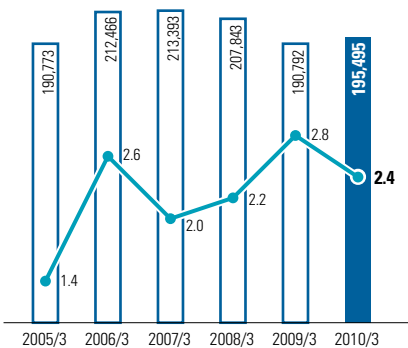
自己資本・自己資本当期純利益率  
(百万円/%)

■ 自己資本  
● 自己資本当期純利益率



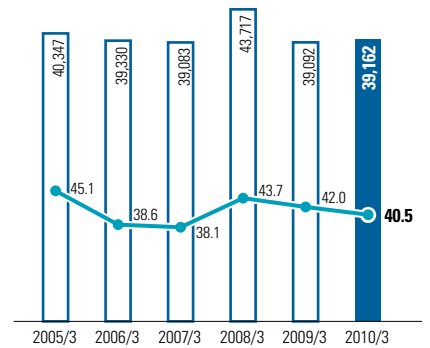
総資産・総資産当期純利益率  
(百万円/%)

■ 総資産  
● 総資産当期純利益率



有利子負債・D/Eレシオ  
(百万円/%)

■ 有利子負債  
● D/Eレシオ



D/Eレシオ = 有利子負債 ÷ 自己資本 × 100

# 主要子会社データ

2010年6月29日現在

会社名	所在地	資本金	議決権の 所有割合	主な事業内容
<b>宝酒造株式会社</b>	〒600-8688 京都府京都市下京区四条通烏丸東入長刀鉾町20 TEL 075-241-5110【お客様相談室】TEL 075-241-5111	1,000百万円	100.0%	酒類、調味料、原料用アルコールの製造・販売
<b>宝酒造株式会社の連結子会社</b>				
タカラ物流システム株式会社	〒610-0343 京都府京田辺市大住浜55-13 TEL 0774-68-1720	50百万円	(100.0%)	運送業、倉庫業、自動車整備業、 損害保険代理業、旅行業等
ティービー株式会社	〒610-0343 京都府京田辺市大住浜55-13 TEL 0774-65-3840	10百万円	(100.0%)	運送業、倉庫業
長運株式会社	〒850-0058 長崎県長崎市尾上町1-16 TEL 095-823-0161	250百万円	(100.0%)	運送業、通関業、倉庫業等
小牧醸造株式会社	〒895-1816 鹿児島県薩摩郡さつま町時吉12 TEL 0996-53-0001	16百万円	(50.0%)	焼酎の製造・販売
株式会社ラック・コーポレーション	〒107-0052 東京都港区赤坂5-2-39 TEL 03-3586-7501	80百万円	(100.0%)	ワイン輸入販売
タカラ物産株式会社	〒612-8338 京都府京都市伏見区舞台町9 TEL 075-601-6267	10百万円	(100.0%)	飼料販売
タカラ容器株式会社	〒612-8061 京都府京都市伏見区竹中町609 TEL 075-605-4540	30百万円	(100.0%)	容器卸売業
株式会社トータルマネジメントビジネス	〒612-8061 京都府京都市伏見区竹中町609 TEL 075-623-2660	20百万円	(100.0%)	広告代理業、マーケティングに関する調査、 販促企画、人材派遣事業、飲食店経営
USA Takara Holding Company (米国)	708 Addison St., Berkeley, CA 94710, U.S.A. TEL 510-540-8250	4,094千米ドル	(100.0%)	持株会社
Takara Sake USA Inc. (米国)	708 Addison St., Berkeley, CA 94710, U.S.A. TEL 510-540-8250	3,000千米ドル	(90.0%)	酒類製造・販売
AADC Holding Company, Inc. (米国)	229 W.Main St., Frankfort, KY 40602, U.S.A. TEL 502-223-9874	30米ドル	(100.0%)	持株会社
Age International, Inc. (米国)	229 W.Main St., Frankfort, KY 40602, U.S.A. TEL 502-223-9874	250千米ドル	(100.0%)	バーボンウイスキーの販売
The Tomatin Distillery Co., Ltd. (英国)	Tomatin, Inverness-shire, IV13 7YT Scotland, U.K. TEL 1463-248-148	3,297千ポンド	(80.6%)	スコッチウイスキーの製造・販売
J&W Hardie Ltd. (英国)	Tomatin, Inverness-shire, IV13 7YT Scotland, U.K. TEL 1463-248-148	250千ポンド	(100.0%)	スコッチウイスキーの製造・販売
宝酒造食品有限公司 (中国) (英文名: Takara Shuzo Foods Co.,Ltd.)	506 Room, Huatengbeitang Commercial Tallbuilding No.37 Nanmofang Road, Chaoyang District Beijing, China 100022 TEL 010-5190-0975	130,000千元	(62.0%)	酒類、調味料、原料用アルコールの製造・販売、 宝酒造グループ製品の輸入販売
広州市利宝餐飲管理有限公司 (中国) (英文名: LB FOOD SYSTEM CO.,LTD.)	18/F, Yue Hai Building No.472, Huan Shi Dong Road, Guangzhou, China 510075 TEL 020-8761-1100	6,800千元	(51.0%)	広州市における日本料理レストランの 店舗運営会社
上海宝酒造貿易有限公司 (中国) (英文名: Shanghai Takara Shuzo International Trading Co.,Ltd.)	Room 19J, Li Du Xin Gui, No.831 Xin zha Road, Shanghai, China 200010 TEL 021-6218-1383	4,896千元	(100.0%)	宝酒造グループ製品の輸入販売、 中国優良産品の輸出
FOODEX SAS (仏国)	4, impasse des Carrières 75016 Paris, France TEL 01-46-47-44-39	250千ユーロ	(80.0%)	酒類・食品・調味料等の輸入・卸売業
<b>タカラバイオ株式会社</b>	〒520-2193 滋賀県大津市瀬田3-4-1 TEL 077-543-7212	9,053百万円	70.9%	研究用試薬、理化学機器の製造・販売、研究受託 サービス、遺伝子治療・細胞医療の商業化、健康 志向食品、キノコの製造・販売
<b>タカラバイオ株式会社の連結子会社</b>				
瑞穂農林株式会社	〒622-0313 京都府船井郡京丹波町保井谷三ツ枝38	10百万円	(49.0%)	キノコ類の生産、販売
有限会社タカラバイオファームセンター	〒899-7306 鹿児島県曽於郡大崎町永吉4217	3百万円	(48.3%)	農産物・林産物の生産、加工並びに販売
株式会社さきのこセンター金武	〒904-1201 沖縄県国頭郡金武町字金武9006	5百万円	(49.0%)	キノコ類の生産、販売
宝生物工程(大連)有限公司(中国)	No.19 Dongbei 2nd Street, Development Zone, Dalian, China 116600	2,350百万円	(100.0%)	研究用試薬の製造・販売および研究受託サービス
Takara Bio Europe S.A.S. (仏国)	2, avenue du president Kennedy, 78100 St Germain en Laye, France	600千ユーロ	(100.0%)	研究用試薬の販売
Takara Korea Biomedical Inc. (韓国)	Lotte New T Castle 601, 429-1, Gasam-dong, Gumchun-gu, Seoul, 153-803, Korea	3,860百万ウォン	(100.0%)	研究用試薬・理化学機器の販売、研究受託サービス
宝日医生物技術(北京)有限公司(中国)	Life Science Park, 22 KeXueYuan Road Changping District, Beijing, China 102206	1,030百万円	(100.0%)	研究用試薬、理化学機器、培地の販売
Takara Bio USA Holdings Inc. (米国)	1290 Terra Bella Avenue, Mountain View, CA 94043, U.S.A.	70,857千米ドル	(100.0%)	持株会社
Clontech Laboratories, Inc. (米国)	1290 Terra Bella Avenue, Mountain View, CA 94043, U.S.A.	83千米ドル	(100.0%)	研究用試薬の開発・製造・販売
<b>宝ホールディングス株式会社の連結子会社</b>				
宝ヘルスケア株式会社	〒604-8166 京都府京都市中京区三条通烏丸西入御倉町85-1 TEL 075-229-6901	90百万円	100.0%	健康食品の製品開発・販売
大平印刷株式会社	〒600-8881 京都府京都市下京区西七条掛越町55 TEL 075-313-7141	90百万円	100.0%	印刷業
宝ネットワークシステム株式会社	〒600-8688 京都府京都市下京区四条通烏丸東入長刀鉾町20 TEL 075-241-5139	30百万円	100.0%	情報システム開発・運用・管理
川東商事株式会社	〒612-8338 京都府京都市伏見区舞台町9 TEL 075-601-5211	30百万円	100.0%	酒類販売、不動産賃貸

(注) 議決権の所有割合の括弧書きは間接所有割合

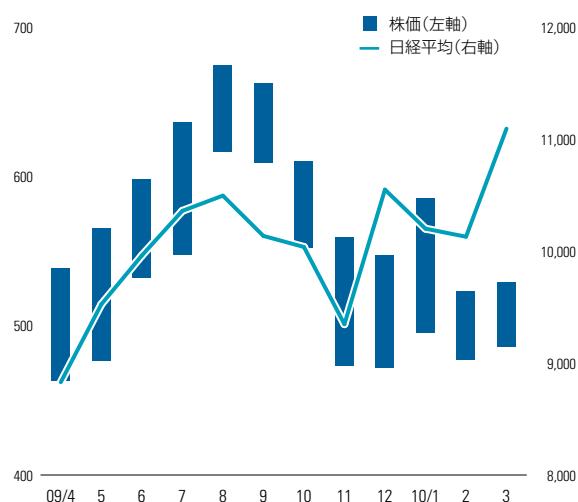
# 会社概要

2010年3月31日現在

## ■ 宝ホールディングス株式会社

商号 宝ホールディングス株式会社  
事業内容 持株会社  
本店所在地 京都市下京区四条通烏丸東入長刀鉾町20番地  
電話 075-241-5130  
設立 1925年9月6日  
資本金 13,226百万円  
代表者 代表取締役社長 大宮 久  
ホームページアドレス <http://www.takara.co.jp/>

### 株価の推移(円)



### 株主メモ

**発行株式**  
発行可能株式総数 870,000,000株  
発行済株式総数 217,699,743株

**株主数** 31,918名

**上場取引所** 東証1部、大証1部

**証券コード** 2531

**株主名簿管理人** 東京都中央区八重洲一丁目2番1号  
みずほ信託銀行株式会社

**株主名簿管理人 事務連絡先** 〒168-8507  
東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部  
電話0120-288-324 (フリーダイヤル)

**株主総会** 定時株主総会は、毎年6月に京都で開催されています。  
その他、必要のある場合には少なくとも2週間の事前通告をもって、臨時株主総会が開かれる場合があります。

### 大株主(上位10名)

氏名又は名称	所有株式数 (千株)	所有株式数の 割合(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	10,407	4.78
株式会社みずほコーポレート銀行	9,738	4.47
農林中央金庫	9,500	4.36
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	8,999	4.13
明治安田生命保険相互会社	5,370	2.47
株式会社京都銀行	5,000	2.30
国分株式会社	3,489	1.60
JPモルガン証券株式会社	3,275	1.50
住友信託銀行株式会社	2,753	1.26
宝グループ社員持株会	2,519	1.16

(注) 1. 所有株式数の千株未満は切り捨てております。  
2. 上記のほか、当社は自己株式を7,227,677株(所有株式数の割合は3.32%)保有しております。  
3. 「住友信託銀行株式会社」の所有株式数には、信託業務に係る株式数は含んでおりません。

## ■ 宝酒造株式会社

商号 宝酒造株式会社  
本社所在地 京都市下京区四条通烏丸東入長刀鉾町20番地  
電話 075-241-5110  
設立 2002年4月1日  
資本金 1,000百万円  
発行済株式総数 20,000株

### 大株主及び

**所有株式数の割合** 宝ホールディングス株式会社 100%  
**代表者** 代表取締役社長 大宮 久  
**ホームページアドレス** <http://www.takarashuzo.co.jp/>

## ■ タカラバイオ株式会社

商号 タカラバイオ株式会社  
本店所在地 大阪市瀬田三丁目4番1号  
電話 077-543-7212  
設立 2002年4月1日  
資本金 9,053百万円  
発行済株式総数 282,139株

### 大株主及び

**所有株式数の割合** 宝ホールディングス株式会社 70.9%  
**代表者** 代表取締役社長 仲尾 功一  
**ホームページアドレス** <http://www.takara-bio.co.jp/>

## ■ 宝ヘルスケア株式会社

商号 宝ヘルスケア株式会社  
本社所在地 京都市中京区三条通烏丸西入御倉町85-1  
電話 075-229-6901  
設立 2006年9月7日  
資本金 90百万円

**発行済株式総数** 3,600株

### 大株主及び

**所有株式数の割合** 宝ホールディングス株式会社 100%  
**代表者** 代表取締役社長 加門 哲也  
**ホームページアドレス** <http://www.takara-healthcare.co.jp/>



# 宝ホールディングス株式会社

京都市下京区四条通烏丸東入長刀鉾町20番地

Phone: (075) 241-5130

[www.takara.co.jp](http://www.takara.co.jp)



この印刷物は環境に考慮し、大豆インキ・水なしオフセット印刷で制作し、FSC認証紙を使用しております。